

2009年度

科目名	世界遺産論		
担当教員	坪井 恒彦		
配当	文財1	コード	14500
開期	前期	講時	月曜日4限
		単位数	2
授業テーマ	世界遺産の最新情報を元に、その現状と課題を探る。		
目的と概要	1972年のUNESCO総会で採択された世界遺産条約でリストに登録された世界遺産は現在、878件(うちにはんは14件)に達しているが、その普遍的価値を巡る課題など、大きな曲がり角にさしかかっている。登録延期となった「平泉」や、「国境を越える世界遺産」などを取り上げ、その将来像などを模索したい。		
成績評価法	時間内レポートの成績と平常点によって評価する。		
テキスト	社団法人日本ユネスコ協会連盟編『世界遺産年報2009』。日経ナショナルジオグラフィック社刊(税込み1050円)		
参考書	新聞や雑誌の記事、放送・インターネットなどの情報を活用する。		
履修に当たっての注意・助言	世界遺産についての新聞や雑誌、放送メディアからの情報にも注意し、講義内容と合わせ、学生諸君なりの考え方や価値観を養って欲しい。		
講義計画			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 世界遺産とは何か。 2. 「危機にさらされている世界遺産」から見えてくるもの 3. 登録延期をめぐる「石見銀山」と「平泉」の違い 4. 「紀伊山地の霊場と参詣道」の課題 5. 負の遺産としての「原爆ドーム」 6. 「日光の社寺」と「白川郷・五箇山の合掌造り集落」が抱える問題 7. 「古都京都、古都奈良の文化財」と「法隆寺地域の仏教建造物」の将来 8. 「姫路城」「厳島神社」「琉球王国のグスク及び関連遺産群」を見直す 9. 自然遺産としての「知床」「白神山地」「屋久島」 10. 日本の世界遺産暫定リストを考える 11. 「百舌鳥・古市古墳群——仁徳陵古墳をはじめとする巨大古墳群」登録の可能性 12. 国境を越える世界文化遺産と国際協調 13. 国境を越える世界自然遺産と環境問題 14. 実施段階に入った無形文化遺産保護条約への期待 15. 総括(レポート作成など) 			